

## 令和4年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立峰山中学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成 【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒 【重点課題】(社会的自立につながる教育) ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進と学力の向上 ・探究的な学びを通じて課題解決能力を高める ・つながる力を生かした豊かな人間性の育成 成と不登校の解消・未然防止	【授業改善と学力の向上】 ○生徒をつなぐ授業改善を進めることにより学習意欲が高まり、「学習に意欲的に取り組んでいますか。」という問いに90%の生徒が肯定的に答えている。特に3年生は昨年度78%から91%へと大きく改善した。 △「探究」を意識した教育活動を推進することで、課題解決能力の育成を図ることが大切である。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○不登校出現率の減少を重点として取り組み、2年度2.39%、3年度2.18%と低い値で維持できている。 △しかし、不登校の解消に至らない生徒もおり、社会的自立に向けた組織的な取組の展開が今後重要である。	1 授業改善と学力の向上 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを行い、「探究的な学び」を通じて課題解決能力を高める ・「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」の研究成果を学校全体で共有するとともに、府下へ広めることを推進する。 ・社会的自立につながるための基礎学力の定着を全生徒に徹底する。 2 豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・豊かな人間性を育成するために教職員の人權感覚を高め、すべての生徒を大切にす言動の徹底に努める。 ・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。	成果と課題(自己評価) ○学び合いを軸とする授業を展開することで、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めることができているか?」という問いに、93%の生徒が肯定的に答えるまでになっている。 ○放課後の補足的な学習会も「ハートフル・スタディ」として、教え合い学習を取り入れ、基礎学力を高めることにつながっている。 △SDGsの取組に不十分さが残った。		
評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 ・「主体的・対話的で深い学び」と「探究的な学び」の充実を図る教育活動・授業改善を推進する。 ・社会的自立の基礎となる学力の定着に向けた教育活動の徹底を図る。	具体的方策 ・「主体的・対話的で深い学び」「探究的な学び」を実現する授業づくりについて、授業研究会を実施するとともに、月1回の教科部会を定例化し、授業実践力の向上をはかる。 ・基礎学力を定着させるための授業や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の実践を展開する。 ・SDGsを意識した取組を展開する。			

保幼小中一貫教育計画及び各学園の重点等基礎として

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の3機能を生かした学級経営を柱とし問題行動の未然防止と不登校の解消に努める。</li> <li>・いじめの早期発見・早期対応・未然防止への組織的取組の展開を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級経営への支援を組織的・計画的に展開する。</li> <li>・いじめアンケートの確実な実施とともに早期発見に向けた二者面談を計画的に実施する。</li> <li>・不登校の解消と未然防止に向け、SCやSSWを含む教育相談体制を確立し、組織的な対応で支援の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎経験の浅い教員が多い中で、学級経営に視点を当てた構内研修を実施し、教職員の資質向上に向けた教職員間の関係も深めることができた。</li> <li>○組織的な相談体制を機能させることで、新規不登校出現も最小限に食い止め、出現率 2.87%と低い値を維持できている。</li> <li>○年間2回の二者面談の実施が大変有効に機能し、安定した状況を作り出している。</li> </ul>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健教育と管理の徹底を図る。</li> <li>・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。</li> <li>・部活動の充実と体力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確実な日々の健康観察と感染症予防対策を徹底し、教育活動の継続を図る。</li> <li>・交通安全指導を繰り返し、交通事故防止に努める。</li> <li>・主体的に部活動に取り組むための指導を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日々の健康観察と感染防止対策で校内での感染を最小限に食い止め、年間延べ4学級の閉鎖に留めることができた。</li> <li>○交通事故対策を、年間を通じて実施することで、大きな事故の発生は防ぐことができた。</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の必要な生徒への理解を深め、適切に支援するための方策を研修し、実践的指導力を高める。</li> <li>・家庭、地域、関係機関との連携を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒の支援方策が多様化する中で、より一層特別支援教育の研修を積むとともに、生徒の進学・社会的自立を見据えた教育支援を組織的に展開する。</li> <li>・未来シート（個別の教育支援計画等）の活用を充実させ、生徒支援を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の情報共有を組織的に進め、支援の方向性を全教職員が理解することで、子ども達の安定した学校生活につながっている。</li> <li>△教職員の経験が浅い分、子ども達の見立てについてまだまだ研修が必要であり、OJTを大切に積み上げていきたい。</li> </ul>
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権問題についての理解や認識・実践力を高める。</li> <li>・教職員の人権意識の高揚を図るための手立てを組織的に展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中の活動や取組の中で人権問題に関する部分に視点を当て、人権問題の解決につながる行動力を培う。</li> <li>・教職員の言動について振り返る機会を設け、「傾聴と対話」を大切にしたり、生徒がのびのびと学べる環境作りを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権を大切にすることを、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている生徒が90%であった。</li> <li>○「傾聴と対話」を大切にしたり支援を継続することで、悩みを打ち明けやすい環境が整いつつあると感じる。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 混乱と言われる時代において、答えのない問いに対して、探究的な学びを通じて仲間とともに課題解決に向かう生徒集団の育成を図る。</li> <li>② 人権尊重の視点での学校環境の整備と誰一人取り残すことなく、個の課題に応じた指導の幅を広げるための研修を積み重ね、「傾聴と対話」を第一とした教育を推進する。</li> <li>③ ICT活用に関する研究を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」による学力の確実な定着を図る。</li> </ul>		

## 令和4年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立大宮中学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>大宮学園教育目標 「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもを育成」 大宮中学校重点目標 「ふるさとを愛し、夢や希望をもって未来を切り拓く、心豊かでたくましい生徒の育成」 ～子どもたちの「がんばろう」という気持ちを引き出し高める指導を目指す～ 1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成 2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着 3 健康な体と豊かな心の教育の充実 4 信頼され、開かれた学校づくり 5 教職員の資質能力の向上 6 大宮学園保幼小中一貫教育の推進</p>	<p>○視点を明確にした合同授業研究会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前・事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 ○各種学力検査の結果を分析し、校内研修で交流協議を行う向上が見受けられた。 ○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士、生徒と教師の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標準語等の取組を充実させた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化、一致した指導・支援に努めた。 ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、生徒の動きづくりとあわせて取組を進めることができた。 △新規不登校生徒もおろし不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。</p>	<p>1 学力の定着 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善・授業研究 ・生徒指導の三機能を活かした基礎・基本の定着 生徒指導の充実、不登校の未然防止と丁寧な支援 2 人権教育を基盤とした指導の展開 3 特別支援教育の充実 4 校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 ・安心・安全で信頼される学校づくり 5 家庭及び地域との相互連携の推進と大宮学園学校運営協議会との協働 ・外部関係機関との連携強化 ・新型コロナウイルス感染症防止を徹底し、感染防止対策を講じ教育活動を推進する。</p>
<p>評価項目 教育課程 学習指導</p>	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大宮学園合同授業研究及び合同研修会、校内授業研究を授業改善につなげる。</li> <li>・「言語活用カリキュラム」、「人権教育カリキュラム」等を活用するとともに、生徒指導の三機能を生かした学びを深める授業改善・授業研究を行う。</li> <li>・各種テストの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着と根気強く取り組む力の育成を図る。</li> <li>・ICTの効果的な活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるよう研修を行う。</li> <li>・地域と連携し、自己の生き方あり方を探求する生徒を育てる視点でのキャリア教育を推進する。</li> <li>・自ら計画を立てて学習できるよう学習の仕方を身につけさせるとともに、各教科の学びが家庭でも継続するような授業づくりとあわせて家庭との連携を進める。</li> </ul>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業公開や授業研究会で大宮学園作成「授業づくりの視点8」「言語活用カリキュラム」「人権教育カリキュラム」の活用など授業改善を進めた。また、生徒にも「授業について考えるHR」において「なぜ勉強をするのか」「大宮中学校が目指す授業」などを考える機会を設けた。その結果、生徒アンケートで「授業はわかりやすい」とする回答が94.8% (前年比2.7%上昇) と肯定的な評価が高まった。</li> <li>○各種学力検査の分析を授業改善につなげ、基礎学力の定着・向上につなげた。</li> <li>△キャリア教育の推進や、自ら計画を立てて学習するなど、自主的・自発的な学習を習慣化させ、確かな学力を確実に育成する。</li> </ul>
<p>保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>		

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大宮学園での連携</li> <li>・組織的な生徒指導・教育相談体制の確立と連携</li> <li>・不登校の未然防止と早期対応、早期解決</li> <li>・いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園人権・生徒指導・特別活動部会での連携により、効果のある指導・支援等、情報共有に努める。</li> <li>・生徒指導部会・教育相談部会を中心に、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー、関係機関とも連携し、情報共有と指導の方向性を確認し、指導・支援を組織的に行う。</li> <li>・生徒が学校に来ることを楽しいと感じ、学校を休みたくなーいと思うよう学校生活を充実させる視点での未然防止と初期対応を丁寧に行う。</li> <li>・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組を生徒の動きづくりと関連させながら行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育を基盤に生徒指導・特別活動の視点も加えながら、人権意見発表会などの取組を充実させた。「大宮中の生徒は他人の心を大切にしたいやうがある」と95.2%の生徒が評価した。</li> <li>○毎週の生徒指導部会、教育相談部会を中心に、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーなどと連携し落ち着いた状況である。いじめ防止対策会議の機能の強化や生徒の動きづくりなど、いじめ防止に取り組み「総合的に見て良い学校・信頼できる学校」と生徒94.4%、保護者92.8%が評価している。</li> <li>△引き続き魅力ある学校づくりを進め、不登校の未然防止や自らの進路を主体的にとらえ社会的自立を目指せるよう、家庭と連携し支援を行う。</li> </ul>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育の充実</li> <li>・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施</li> <li>・健康教育の充実</li> <li>・部活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を徹底し、安心安全な環境づくりを進める。</li> <li>・危機意識の醸成を図り、自らを守る行動を考えさせる。</li> <li>・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。</li> <li>・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため、部活動指導を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍でも実現可能な方法を検討し、部活動の充実も含めて安心安全な環境づくりを進めた。</li> <li>○薬物乱用防止教室や非行防止教室、性の学習、ネットモラル講演会、避難訓練などの機会を設けた。</li> <li>○生徒とともに「大宮中学校のルール」を見直した。</li> <li>△SNSの取り扱いなど、さらに指導が必要である。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園学校運営協議会（学園コミュニティ・スクール）</li> <li>・各関係機関との協働</li> <li>・地域の教育資源の教育活動への活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小中一貫教育コーディネーター及び地域支援コーディネーターと連携し、大宮学園学校運営協議会（学園コミュニティ・スクール）との協働をさらに進める。</li> <li>・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○行事などの公開が増え、「学校の様子は家庭・地域に開かれよよく伝わる」「困ったり悩んだことは気軽に相談できる」と保護者の肯定的な評価が前年度より10%以上増加し連携が進んだことがうかがえる。</li> <li>○大宮学園学校運営協議会やPTAと「見守りとセッットのあいさつの取組」やにここにかかりによる下校時の地域パトロールが実施できた。また、地域で活躍される方に講話などで支援をいただいた。</li> </ul>
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権尊重の視点に立った指導の展開</li> <li>・コンプライアンス遵守の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の人権意識の醸成を図り、人権教育をすべての指導の基盤にし、教育活動を推進する。</li> <li>・人権教育の研修を計画的に行い、常に共通確認した「大切にしたい指導」に立ち返り、指導や支援にあたる。</li> <li>・小さな変化への気づきを大切にし、報告、連絡、相談を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権を大切にしたい指導・支援になっていくか機会あるごとに振り返り、危機意識を持った実践を継続できた。</li> <li>△さらに小さな変化への気づきを大切にし、生徒・保護者の思いに寄り添った指導支援を積み上げる。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大宮学園保幼小中一貫教育の重点である「人権教育」と「ことばの力」の育成、特に「言語活用カリキュラム」を活用した人権意識の醸成を指導の柱として取り組む。</li> <li>2 校内研修や学園の授業研究を通して工夫・改善を進め、生徒の変容につながる継続した指導を行う。（学力分析やICTの効果的活用など）</li> <li>3 魅力ある学校づくりを進めることにより不登校の未然防止を進めるとともに、自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指すよう家庭と連携し支援を行う。</li> <li>4 大宮学園学校運営協議会との連携、協働を一層進め、さらに地域とともにある学校・学園を目指す。</li> </ol>		

# 令和4年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立網野中学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。</li> <li>2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。</li> <li>3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。</li> <li>4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。</li> </ol>		<p>網野学園での授業研究会を通して、授業づくりについて学んで、授業づくりができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導の三機能を生かした教育活動の推進及び他者とのつながりの重視、肯定的評価の積み上げ等により、いじめや暴力事象の未然防止や学校生活の安定を図ることができた。</li> <li>○非認知能力の育成に係る研修を計画的に実施し、授業改善に生かすことができた。</li> <li>△不登校の解決に向けて、チームでの取組、関係機関と連携した取組を進めたが、さらに組織的に対応する。</li> <li>△特別の支援を要する生徒が増加する中、保護者との連携を深め、支援の充実を一層図る必要がある。</li> </ul>		<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ指導」の展開「つながろう仲間と つなげよう心を！」を生徒の合言葉に設定し、常につながりを感じさせ学校生活を充実させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「未来を拓く学校づくり」推進事業の研究を通じた授業づくり及び授業改善</li> <li>(2) 豊かな人間性の育成、規範意識の醸成</li> <li>(3) 不登校の未然防止と丁寧な支援</li> <li>(4) 特別支援教育の充実</li> <li>(5) 信頼される学校づくり～家庭との連携強化</li> <li>(6) 網野学園学校運営協議会との協働</li> </ol>	
評価項目	重点目標	<p>成果と課題(自己評価)</p>			
教育課程 学習指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業実践力の向上</li> <li>2 家庭学習時間の確保と家庭学習の習慣化</li> <li>3 「未来を拓く学校づくり」推進事業を通じた研究推進</li> </ol>	<p>○「未来を拓く学校づくり」推進事業の研究を学園として取り組んだ1年目であった。今年度は、理論研究として、特に非認知能力に視点をあて、授業研究を2回行い、校内での授業づくりを行い、授業改善に向けた取組を行った。</p> <p>○タブレットの活用を全教育活動の中で進めることができた。また、2年においては、ELSA Speak の活用により生徒の英語力の向上につながった。</p> <p>△家庭学習の習慣化については、さらに取り組んでいく必要がある。</p>			
生徒指導	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上</li> <li>2 いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権意識の醸成</li> <li>3 不登校の未然防止と早期対応及び解決に向けた組織的な体制づくり</li> </ol>	<p>○全教育活動の中で大切にしてきた「ほめて、認めて、他者をつなぐ」指導を教職員が確認、意識して指導支援を行った。日々の授業や行事・取組で、生徒の居場所づくりと絆づくりにつながった。</p> <p>○実態把握と早期対応を継続し、いじめ根絶を徹底した。</p> <p>△学校課題の一つである「不登校」の未然防止、早期対応に向けて、生徒指導部、教育相談部の組織化に努めた。不登校生徒の居場所づくりをさらに進めていく。</p>			

健康（体育）・安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 体力の向上</li> <li>2 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成</li> <li>3 健康教育の充実</li> <li>4 部活動の推進</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、自他の生命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染防止に努め、安全・安心・安心な環境づくりを進める。</li> <li>・部活動を通して、異年齢集団での共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルスによる閉鎖等、常に感染状況に注視しながら生徒の安全を第一に考え教育活動を進めた。</li> <li>○体育的行事や部活動を通して、異年齢集団の中で学ぶ意義を大切にしたい教育活動を進めることができた。</li> <li>○計画的に避難訓練を実施し、自分の身を守り、周りの人も守る実効性のある取組とすることができた。</li> <li>△新型コロナウイルスの状況を判断し、教育活動を推進していく。</li> </ul>
特別支援教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校内支援体制の機能化</li> <li>2 個々の生徒や保護者のニーズの把握と支援の充実</li> <li>3 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会および特別支援教育部会の一層の機能化を図る。</li> <li>・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り連携した支援の継続に努める。</li> <li>・生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき指導・支援を充実し、有効な手立てを蓄積する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援学級の生徒及び支援を必要とする生徒の状況について共有し、指導、支援を全教職員で行うことができた。</li> <li>○本校の通級指導に係るニーズは高く、通級指導教室の充実を図ることができた。</li> <li>△通常学級に在籍する支援を要する生徒への個別の指導をさらに充実させる。</li> <li>△教育支援委員会の機能化を進め、適切な就学指導をさらに進める。</li> </ul>
開かれた学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 信頼される学校づくりの推進</li> <li>2 地域の教育資源の活用</li> <li>3 各関係機関との連携と協働</li> <li>4 学園学校運営協議会との協働</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努める。</li> <li>・たより、HIP等を活用して情報発信に努め、積極的に学校公開を実施し、地域との連携を深める。</li> <li>・各関係機関との連携を強め、生徒及びその過程への支援を組み立てていく。</li> <li>・網野学園学校運営協議会、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、PTAとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組の改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、生徒を応援していただく機会づくりに努めた。</li> <li>○各関係機関との連携強化を図り、生徒や家庭への支援を組み立てていくことに努めた。</li> <li>○網野学園学校運営協議会、学校評議員の方々、学校支援ボランティアの方々との協働を意識して取組を進めることができた。</li> <li>△次年度は、新型コロナウイルスの状況を判断しながら、主任児童委員、民生委員の方々との連携を進めていく。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」という指導観のもと、「つながろう仲間と つなげよう心を！」を教職員・生徒の合言葉とし、常につながり意識させる中で学びに向かわせるとともに、安心・安全な学校生活、安定した学校を維持・向上させる。</li> <li>・各関係諸機関との連携・協働を通して、自己肯定感の醸成、学校不適応や不登校の未然防止、早期対応、居場所づくりに取り組む。</li> <li>・第2期「未来を拓く学校づくり」推進事業の取組を学園一体となり進めるとともに、本校の学校力の向上につなげる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染防止に努めるとともに、常に状況を注視しながら教育活動の充実、発展に努める。</li> <li>・教職員の働き方改革を意識しながらも、教育の質の向上を図る。</li> </ul>		

## 令和4年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立丹後中学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>開校9年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性を信じそれに果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。</p>		<p>「本気で本物を創る」「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、落ち着いた学校生活に取り組みとともに、学習・部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。仲間を思いやる校風もすっかりしたものとなってきた。さらに、新たな時代に対応できる自己肯定感や自己有用感を高め、目的達成に希望をもつて向かい、学校生活に積極的に取り組む力を付けさせたい。</p>		<p>個々の生徒が自分にとっての本物(進むべき方向性)を定め、創造し生き生きと希望をもって挑戦を続ける学校にする～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にさらに進める～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の個性発掘へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。</li> <li>○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。</li> </ul>	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの個性を認め合い、互いが高まり合うコミュニケーション能力の育成を図る。</li> <li>・GIGAスクール構想に則った一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。</li> <li>・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。</li> </ul>	<p>具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教科でタブレットなどのICT機器の活用スキルを高め、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、多様な学習形態の創出に努める。</li> <li>・発達段階に応じた指導目標に基づき、指導と評価の一体化した取組を、ICT活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。</li> <li>・通年のドリル学習の一層の内容充実を図り、授業内容や家庭学習課題と関連付けるなど工夫し、継続的に取り組ませる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット活用などは、教科授業に限らず、生徒会の議案書や選挙公報などのペーパーレス化、タブレットの持ち帰り学習など、特別活動も含めて多様な学習形態を創造することで、生徒の自己有用感や共感的態度の育成などにつながった。</li> <li>○中学卒業までの10年間の各発達期の指導目標を学園で共有し、育成する資能力をはききりとさせ、授業内でのICT活用による評価材料の蓄積を行うなど、指導と評価の一体化が進んだ。</li> <li>○実施教科を5教科とした通年のドリル学習を継続し、基礎基本問題を繰り返しや家庭学習課題と関連づけた問題作成など、授業の学習内容理解の定着が図れた。2・3年の少人数数学級授業を継続し、年々学習課題の改善が見られている。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する生徒の背景を多面的にとらえ、いじめの防止対策の充実や不登校生徒に対する学びの保障に努める。</li> <li>・育てたい力を共有し、教職員の学級経営力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業間指導における生徒への寄り添い指導や教育相談月間などを全教職員で丁寧に行い、生徒との信頼関係づくりを進めるとともに、個別最適な学習環境を設定していく。いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果等を基に積極的な組織的対応・指導に努める。</li> <li>・「丹後学」等を活用した生徒の協働的な活動の場の充実を図り、未来の担い手として「将来の社会的自立」に向けたキャリア教育を進める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒とのふれあいや2分前着席による安定した学習規律を目指し、全教職員での業間指導を日常的に行い、生徒にとつての安心安全な学校生活を生み出している。いじめ防止対策委員会・生徒指導部会・教育相談部会を毎週実施し、指導の方向性を全教員へ発信するなど、PDCAサイクルを回して、学校全体で指導にあたった。学期ごとの全教員による「相談タイム」やいじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、不登校・いじめの未然防止、早期対応につなげた。</li> <li>○学習発表会の学年別開催、立会演説会や立志式、合唱祭の中間交流会など、オンラインや録画放映も含めた工夫で、将来の社会的自立を目指し、異年齢の意見交流や決意の交流、答えのない課題解決方法を探るなどの機会を大切にすることで、生徒の視野を広げる活動を進めた。</li> </ul>	
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体 育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育つて、その力を学習にもつなげる。</li> <li>・安全な生活の仕方について、丹後学園全体で指導を行う。</li> <li>・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな価値を生み出すことへの挑戦を続け、体育系・文化系部活動にかかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。</li> <li>・丹後学園一貫 PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動（NHD）や登下校指導を継続する。</li> <li>・生徒の安全安心な学校生活のために、コロナ感染など対応など感染症予防など衛生面からも常に危機意識を持ち指導にあたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各種大会や試合、発表や作品の作品展等、日々の頑張りを発信する場として、限られた時間を大切にして取り組む姿勢が生まれている。礼儀などを学ばせる場として部活動の指導にあたることを継続し、上位入賞を果たす部活や、文化面での入賞も多くなり、成果がみられた。</li> <li>○丹後学園 PTA・丹後学園運営協議会等の協力を得て、あいさつ運動（NHD）や登下校指導は計画通り実施できた。学校行事の参観の機会も増え、連携も深まった。また、子育て教育講演会を行い、子どもたちの教育環境づくりが図れた。</li> <li>△喫緊かつ重要な課題として、子どもたちを取りまく SNS に関する指導があげられる。丹後学園「情報モラル指導モデルカリキュラム」を活用した系統的な指導を充実させていく必要がある。感染症予防に係る新しい学校生活様式は、定着できている。</li> </ul>
開かれた 学校づく り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、地域と共有する学校教育を目指す。</li> <li>・学校・家庭・地域との相互の連携を図り、生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。</li> <li>・地域人材の積極的な活用を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な教育活動の参観を、保護者や、丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただくご意見や感想を学校経営に活かす。</li> <li>・「丹後学」などで丹後を元気にする提言をテーマに探究を進め、地域の取組への積極的な参加を行い、学校により等の地域回覧・全戸配布や、学校HPへの掲載を通じて、学校教育の充実と地域の活性化の両方を目指した発信を行う。</li> <li>・地域学校協働本部等を活用し、支援ボランティアの方々への支援を積極的に活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△学校や学園の行事や取組の広報は不十分だったが、丹後学園運営協議会の委員や保護者に限って案内できた行事が、ほぼ通常に戻り、可能な範囲での参観はいただけた。学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりが進んだ。</li> <li>○2学年については、地域へ参加しての体験学習を実施し、総合学習発表会も学年ごとと別日で開催し、探究学習の成果の発信ができた。学園HPや学園だよりなどの行事内容の発信に努めることができた。</li> <li>△学校支援ボランティアの方々々に継続して行っていただけるよう、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努め、徐々にではあるがババア寿司体験や読み聞かせなど、実施できたものもある。実施は不十分であった。</li> </ul>
特別支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育をベースとして、生徒のそれぞれの特性についての理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。</li> <li>・丹後学園や関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配慮を要する生徒の背景を多面的にとらえ、個々の課題に応じた指導・支援を、保幼小中の一貫性・連続性を大切にして行う。また、関係機関との連携を積極的に行い、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒について、全教職員で課題共有を大切にし、定期的に校内委員会を開催するなど、組織的な支援を行う。</li> <li>・丹後学園内の連携や専門的見立てなどをもとに、校内研や研修会などの充実を図り、また、切れ目なく学ぶことができて教育を進め、子どもも自立へ向けた適切な支援により認知能力と非認知能力の一体的な育成を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にした指導や支援を行うことにより、病院との医療連携は、直接的な相談やオンラインでできることによる特別支援教育研修会「通常学級に在籍する気になる子どもたちの特性や行動の理解と対応」も1学期に実施。スクールカウンセラー丹後学園教育相談研修会や校内委員会も計画的に実施した。</li> <li>○夏の丹後学園夏季全体研修会では、大学教授による講演「学力テストで測れない非認知能力を学校で伸ばすために」を聴き、参観や懇談など小中の接点をつなげる連携ができた。関係医療機関等との連携や、校内ケース会議の充実を図るなど、充実のための環境づくりと指導の充実を更に進めていく。</li> </ul>
次年度に向け た改善の方向 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した教材開発や評価の研究を進める。また、生徒の学習意欲や目的意識への動機づけの質の向上を目指していく。</li> <li>・保幼小中一貫の視点を大切にしながら、充実期の「学習習慣」、学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努め、引き続き、系統的な読む力の育成を重点研究テーマとして進めていく。</li> <li>・感染症防止を最優先に行い、地域に開かれた学校づくりをさらに進め、地域からの支援などが反映できるように仕組みを考えていく。</li> </ul>		

## 令和4年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立弥栄中学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1	全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。	「未来の担い手育成プログラム」「京丹後市保幼小中一貫教育授業研究会」の取組みによって、授業の中に課題解決型学習を取り入られるなど、指導方法の工夫改善の取組みが進み、自分の考えや思いを伝えることができる生徒が増えた。また、ICT機器の活用や教え合い学習等の取組み等で、生徒の学習意欲や基礎学力の向上が見られた。しかし、学習に対する不安や、家庭環境等の課題から不安定になる等の生徒もいる。個人面談や業間の意図的な生徒との関わりによる信頼関係の構築、SCやSSW等の専門家の助言に基づき適切な対応や指導を継続的に行う必要がある。	1 研修(学習指導、生徒指導、生徒理解、学級経営等)や実践を通じた学校全体の指導力向上の取組み	2 基礎基本の定着と、主体的・対話的で深い学びのための指導方法の工夫・改善	3 特別支援教育の充実
2	主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育む教育課程の編成と実施に努める。			4 現状を踏まえた組織体制の構築と人材育成	
3	基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。				
4	知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表出する力を育んでいく。				
5	未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。				
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的、対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末等、ICT機器の積極的な活用</li> <li>課題解決型学習の推進</li> <li>教え合い学習、ドリル学習での基礎基本の定着</li> <li>学園や校内の授業研を実施し、指導方法の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒も教師も、ICT機器の使用の習熟が進み、授業や学校生活における効果的な活用が進んだ。</li> <li>個人やグループで課題解決について考え、意見をまとめて発表する力が着実に身につけてきた。</li> <li>教え合い学習の取組みで、教師と生徒、生徒と生徒の学習を通しての信頼関係の深まりと基礎学力の定着につながることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△学力の2極化が見られる中、生徒の主体的な学び、学習意欲の向上、基礎学力向上のため指導方法の改善と学習の取組みを継続する必要がある。</li> </ul>	
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ、不登校の未然防止のための信頼関係づくりと丁寧な対応</li> <li>・生徒指導の3機能を生かした実践の推進と自尊感情の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止対策委員会、生徒指導部会、教育相談部会で、生徒の実態把握と様々な視点からの分析、組織的な対応や指導の方針立て</li> <li>・業間や個人面談、その他教育活動全体を通して、生徒との関わりを大切に、信頼関係を構築</li> <li>・いじめアンケート等、各種アンケートを活用し実態把握と早期発見、早期対応</li> <li>・一人一人が認められ、自己肯定感を高める学級づくり・学園全体で実態と指導法を共有し一貫した指導の確立</li> </ul>	<p>○二者面談や休み時間を含む学校生活の中で、教師が生徒との関わる時間を多く持つことで、生徒が教師に相談しやすい雰囲気ができ、信頼関係が深まった。</p> <p>○SNSや非行防止等について外部講師による講義はわかりやすく、生徒は自分の事と捉え自分の行動を振り返る機会とすることができた。</p> <p>△情報モラル等複雑化する教育課題に対し、さらに組織的な対応や、専門機関との連携を推進する必要がある。</p>
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・部活動の充実</li> <li>・保健、安全教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートや面談による実態把握と保健指導や部活動で体力づくりと基本的生活習慣について指導</li> <li>・薬物乱用防止教室、性に関する学習、感染症予防等の指導による自分を守るための自律的態度の育成</li> </ul>	<p>○年間を通して、健康安全や保健に関する指導を行い、生徒の自律的な態度の育成につながった。</p> <p>△コロナ禍の行動制限により、生活リズムの乱れや体力低下が懸念させる。多方面からのアプローチで自律的な態度の育成を行う。</p>
研修（資質向上の取組み）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な研修会への参加</li> <li>・校内研修による指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修会への積極的な参加と研修内容を本校教員へフィードバック</li> <li>・本校教員による実践事例の報告と研修で人材育成と指導力の向上</li> </ul>	<p>○本校の教員が過去の実践例を踏まえた研修を行い、他の教員が指導に役立てる等人材育成につなげることができた。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援に関する専門的な知識と指導法の習得</li> <li>・特別支援コーディネーター一による推進体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家による指導助言や研修による、特別支援に関する理解と適切な指導法の習得</li> <li>・それぞれの生徒に応じた対応をするための特別支援コーディネーターによる学年、分掌をつなぐ組織体制の推進</li> </ul>	<p>○生徒の実態交流や支援に関わる研修を行い、個に応じた指導を共通確認しながら行うことができた。</p> <p>△適切な対応や指導で生徒の力を伸ばすため、更なる研修が必要である。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 これまで積み上げてきた学園の取組み、課題解決型学習の成果を、今後の授業改善の取組みに役立てる。</li> <li>2 生徒数、教員数の減少に伴い、指導体制や年間計画等を見直し生徒にとって豊かな学校生活をおくれるようにする。</li> <li>3 生徒の思いや悩みを受け止め、生徒の力を伸ばすため、研修と実践による指導力の向上、人材育成に努める。</li> </ol>		

# 令和4年度 学校評価自己評価報告

学校名 [ 京丹後市立久美浜中学校 ]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>&lt;久美浜学園&gt; 指導の重点：学力向上            (1) 基礎・基本の徹底            (2) 主体的に学ぶ力の伸長(授業づくり)            (3) 家庭学習時間の確保</p> <p>◇規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にしている学校を目指す。</p> <p>◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。</p> <p>1 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上            2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上            3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善            4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立            5 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」</p>	<p>○落ちてきた生活を送ることができ、環境が主体的に取り組むことができ、丁寧な指導や説明を大きく前にも、ICTを活用した授業実践が大きい。研究や説明を大きく前にも、ICTを活用した授業実践が大きい。研究や説明を大きく前にも、ICTを活用した授業実践が大きい。</p> <p>○効果的に方々で行われ、個別のケース会議も盛んに行われ、関係機関との連携やカウンセラーの支援要請など、円滑に行えた。ジェンダー平等やLGBTQに関する取組や指導、よさの支援センターの巡回相談の活用など、人権教育や特別支援教育の視点を立って生徒指導や学校教育の見直しを図ることができた。</p> <p>○学園の研修会において講義や学校運営協議会や地元高等学校からの課題提起を行うことにより、地域に受け込んだ今後の教育の在り方について全教職員が学んだ。根拠あふれた学力向上のための授業や指導、改善が残った。分析と具実した立案、改善には課題が残った。個別室指導が充実した。生徒も増加した一方で、新たな1年生の新規不登校が増加し出現率は横ばいの状況のまま推移した。</p> <p>△コロナ禍において長期にわたって活動制限が行われたため、学校公開や諸関係団体との連携会議を行うことができなかった。また、学校行事についても保護者や地域への公開が困難であった。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 教育活動の重点的方針            (1) 「学びの保障」と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進            (2) 地域に貢献できる人材の育成を目指した「久美浜ならではの教育」を展開する。授業改善の推進            (3) 価値観の変化への対応と多様性へのさらなる寛容性を具現化するための教育活動の精選と新たな生徒指導及び教育相談の充実            2 職務上の重点的方針            (1) 「久美浜学園(一貫教育)」=本校の教育という視点を常に一人ひとりが教師力を高められる研修を充実する。(個人研修・校外研修・出張研修のフィールドバックなど)            (2) 私たち一人ひとりが教師力を高められる研修を充実する。(個人研修・校外研修・出張研修のフィールドバックなど)            (3) 忙しい時こそ複数対応・迅速な報告と相談・学校組織としての対応(危機管理)を意識し、「教職員の協働意識」を高める。            (4) 「社会の常識」を高める。意識した保護者対立、働きやすい職場環境の維持に努める。            (5) 働き方改革の推進と時間外勤務時間の削減…達成目標の実現に向けた具体的取組の推進・ノーマンションの退校時間の遵守・会議のフアシリテーション推進・部活動指導員の活用など</p>
評価項目	具体的方策	成果と課題(自己評価)
<p>教育課程            学習指導</p> <p>保 幼 小 中 一 貫 教</p>	<p>◇学習支援加配を主軸とした学力向上の全校展開            ・個別最適学習の推進            ・特級・別室生徒を含む学習面の課題をもつ全ての生徒への責任あるフォローアップと進路実現            ・効果性の高い詳細な学力分析と方策の立案、教科を越えた具体的授業改善と授業研究            ◇定期テスト改革推進と定期テストのみに依拠しない単元や定着を重視した評価の設定            ・各教科のシートを活用した家庭学習の明示(生徒・PTAへ)            ◇タブレットを活用した家庭学習の充実            ◇教科内CBTの推進と学力の明確な分析と学力向上のためCBT活用            ◇グローバル人材の育成と英語力の向上</p>	<p>○今年度配置された学習支援加配が中心となり、学力向上に係る取組が大きく前進した。その効果は、授業中の個別支援、補充学習や家庭学習の充実、別室生徒への支援、教員の資質向上に係る取組など多岐にわたった。</p> <p>○定期テスト(中間テスト)を廃止し、単元ごとの定着を大切にしたい学習指導要領に沿った評価を行った。</p> <p>○タブレットなどのICTを駆使した効果的な授業の展開やエルサステークを導入した英語教育、オンライン留学会の積極的参加など、グローバル社会を担う人材育成に努めた。</p> <p>△今後さらに新たな学力の育成を目指す授業改善を図っていくとともに、学園での共同研究を活性化していく必要がある。</p>

育の諸計画及び	生徒指導	<p>◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた取組</p> <p>(1) 生徒指導の機能化</p> <p>— 不適応生徒への丁寧な対応</p> <p>(2) 主体的活動の活性化</p> <p>— 豊かな人間性の育成と多様性の尊重</p>	<p>◇認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ教育の展開</p> <p>◇生徒指導・教育相談・特別支援教育の一体的展開</p> <p>◇別室機能のさらなる強化と学習補充</p> <p>◇生徒会活動・学級活動の充実と継続</p> <p>◇討議・話し合い活動の場の設定</p> <p>◇SDGsの取組継続と横断的学習の展開</p> <p>◇アフターコロナにおける行事や取組の正常化と精選・内容の充実、スリム化</p>	<p>△コロナ関連による欠席や出席、不登校生徒など、学校で授業を受けられない生徒が増加し、学習の定着、二極化に課題を残した。</p> <p>△アフターコロナでは、コミュニケーション力の回復が課題。様々な主体的活動の活性化が必要である。</p> <p>○SDGsの取組をはじめとする生徒会活動が活性化した。今後もジェンダーフリーやLGBTQ、校則改定やいじめ追放の取組などを、継続的に生徒主体で進めていく。</p> <p>○生徒指導の関連諸会議を定期的に開催した。</p> <p>○感染防止の取組徹底と備品充実により、校内でのクワスタを防ぐことができた。</p> <p>○指導者不在の休み時間での避難訓練や、避難所開設時の教職員の対応研修などを実施、内容が充実した。</p> <p>○ユニバーサルデザインと特別支援教育の視点で全教育活動を捉えた実践が進んだ。</p> <p>○特支コーディネーターを中心に、組織で適正な見立てを行い、不適応傾向の生徒の学校での生活環境を整えることにより、改善を図ることができた。</p> <p>○よさのうみ支援センターや各病院・クリニックなど、多くの関係機関との継続的連携により、専門家の助言を生かした根拠ある見立てと効果的な指導が可能になった。</p> <p>○体験活動や職場体験活動を計画通り実施することができ、ふるさとや将来像について、各自が自分事として考えることができた。</p> <p>○丹後学・SDGs・都市拠点・ふるさと提言などを横断的・系統的に展開するとともに、同窓会との共催により「くみちゅうSDGsミーティング2022」を開催し、本校生徒の取組や提言を校外の広範囲に発信できた。</p> <p>○学校運営協議会の討議内容を動画により学園全教職員が視聴、一致した方向性を確認することができた。</p> <p>○緑風高久美浜学舎との共同事業を数多く展開し、地域の学校に対する意識が高まった。</p>
各学園の重点等を基盤として	健康(体育)・安全	<p>◇新型コロナウイルス感染症感染防止の取組徹底及び健康・安全教育の充実</p>	<p>◇緊急時対応訓練の実施(土砂災害、火災、不審者、地震)</p> <p>◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニユアルの徹底</p> <p>◇健康・安全に関する教育の充実</p>	<p>○特別支援教育の視点で展開する全教育活動の展開</p> <p>○特支アセスメント・個別の指導計画・個別の支援計画・小中連携資料・教育相談個票の日常的活用と検証、全教員での共有化</p> <p>○支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積</p> <p>○担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談</p> <p>○通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化</p>
開かれた学校づくり	開かれた学校づくり	<p>◇キャリア教育の横断的展開と地域連携の強化</p> <p>◇学校運営協議会を窓口とした校内教育活動の展開</p>	<p>◇丹後学の充実…丹後学・ふるさと学習・体験学習の一体的展開</p> <p>◇学校運営協議会・地域学校協働活動と学校教育活動の実効性ある一体化</p> <p>◇学校運営協議会を窓口にした地域人材の活用…講話学習・授業への積極的活用</p> <p>◇アフターコロナを見据えた学校支援ボランティアの積極的活用・拡充</p> <p>◇同窓会等と連携したふるさとと母校を愛する心情を育てる取組の推進</p> <p>◇地元高等学校との連携共同事業の活性化</p>	<p>○体験活動や職場体験活動を計画通り実施することができ、ふるさとや将来像について、各自が自分事として考えることができた。</p> <p>○丹後学・SDGs・都市拠点・ふるさと提言などを横断的・系統的に展開するとともに、同窓会との共催により「くみちゅうSDGsミーティング2022」を開催し、本校生徒の取組や提言を校外の広範囲に発信できた。</p> <p>○学校運営協議会の討議内容を動画により学園全教職員が視聴、一致した方向性を確認することができた。</p> <p>○緑風高久美浜学舎との共同事業を数多く展開し、地域の学校に対する意識が高まった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	次年度に向けた改善の方向性	<p>◇改訂生徒指導提要における「風土の醸成」に沿った学校不登校出現率を増加し、環境整備、研修等を充実させる。</p> <p>◇ICTをさらに活用し、個別指導・家庭学習などの充実、学習の場の提供などを促進し、個別最適化された望ましい指導を組織で展開できるよう学園内の小・小間の学力格差を正しく正す。</p> <p>◇学園経営を行っていく。</p>	<p>◇自己存在感の感受</p> <p>◇自己決定の場の提供</p> <p>◇安全・安心な関係の育成</p> <p>◇自己決定の場の提供</p> <p>◇安全・安心な関係の育成</p> <p>◇自己決定の場の提供</p> <p>◇安全・安心な関係の育成</p>	<p>○体験活動や職場体験活動を計画通り実施することができ、ふるさとや将来像について、各自が自分事として考えることができた。</p> <p>○丹後学・SDGs・都市拠点・ふるさと提言などを横断的・系統的に展開するとともに、同窓会との共催により「くみちゅうSDGsミーティング2022」を開催し、本校生徒の取組や提言を校外の広範囲に発信できた。</p> <p>○学校運営協議会の討議内容を動画により学園全教職員が視聴、一致した方向性を確認することができた。</p> <p>○緑風高久美浜学舎との共同事業を数多く展開し、地域の学校に対する意識が高まった。</p>